

「地域の論点」 論点 2

長野市松代地区の地域活性化

～学生ボランティア活動から見えるもの～

ボランティア団体 Matsushiro JBT

Matsushiro JBT 結成のきっかけ

Matsushiro JBT は、長野市松代地区での環境保全活動や世代間交流などを目的としたイベントや催しを開催することで、松代地区の活性化を図り、地域社会に貢献し、多くの学生がボランティアに関わる機会をつくることを目的としています。

Matsushiro JBT には前身である「豊栄地域活性化委員会」と「西条地域活性化委員会」の活動がありました。それぞれの活動は下記のとおりです。

・豊栄地域活性化委員会

▪結成日 2016年5月28日

▪主な活動内容

①豊栄地域における奉仕活動の実施（ゴミ拾い・草取り・落ち葉はき・雪かき）

②豊栄地域におけるイベントの企画及び運営

③広報活動

④松代地区内のイベントへのボランティア参加 等

▪活動実績

①第1回皆神山春マラソンの企画及び運営

②第2回皆神山春マラソンの企画及び運営

③豊栄雪まつりの企画及び運営

④第1回世代間交流フェアの企画及び運営 等

主要メンバーである井出昌輝さんは、小学生の頃から豊栄をはじめとした地域を紹介する活動を友人と自主的に行っていました。自身で作成した豊栄地域のおすすめスポットを紹介するチラシや冊子を松代地区の社会福祉協議会に見せたところ、「ガイドをしてもらえないか？」と要請されることもありました。また、自主的な活動をしていく中で地域のポイ捨てなど環境面における地域課題について関心を持つようになり、この課題を何とか解決できないかと考えるようになりました。そこで、地域ガイドなどの広報活動や地域の環境課題の解決を目指す組織が必要だと感じて、「豊栄地域活性化委員会」を中学生の時に設立しました。

・西条地域活性化委員会

▪結成日 2017年10月25日

■主な活動内容

- ①西条地域における奉仕活動の実施（ゴミ拾い・雪かき）
- ②広報活動
- 活動実績
- ①松代ウォーク in 西条の企画・運営
- ②西条地域におけるゴミ拾い及び雪かきの実施
- ③ポスターの作成

主要メンバーである高崎悠輝さんは、2016年に放送されていた大河ドラマ「真田丸」の地域イベントのボランティアをしている際に、豊栄地域活性化委員会の井出さんと意気投合して、2017年の皆神山春マラソンにボランティアスタッフとして参画するなど地域活動を行っていました。活動を続けるうちに自身の地元でもある西条地区のことも多くの方に知ってもらいたいと思うようになり、活動母体として「西条地域活性化委員会」を立ち上げました。その後は、皆神山春マラソンの運営サポートや地元での奉仕活動を行っています。

そして、地域に対して同じ志を持つ両団体は、2019年に活動の幅を松代地区全体に広げ、より多くの若者たちを活動していけるように手を組み、「Matsushiro JBT」結成に至りました。

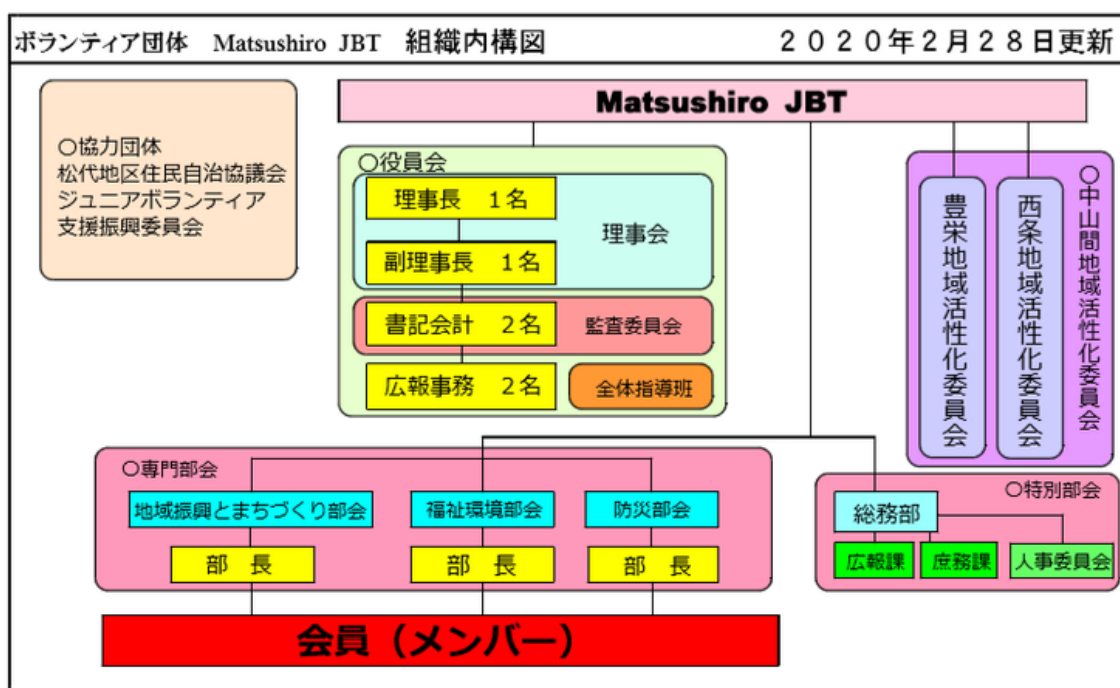


▲豊栄地域活性化委員会の活動を報じる新聞記事

組織について

Matsushiro JBT 設立前の豊栄地域活性化委員会と西条地域活性化委員会は、それぞれ松代地区の社会福祉協議会にバックアップしてもらうことで活動をしていました。しかしながら、社会福祉協議会としても単体として継続的にバックアップしていくことは難しいといった事情もあり、Matsushiro JBT 設立後は住民組織である「松代地区住民自治協議会」が活動をバックアップしていくことになりました。Matsushiro JBT の組織図としては以下のとおりになります。

■組織図



理事長である井出さんは、「活動を続けていて継続性を担保するにはある程度の規模で運営する必要性を痛感していました。学生が運営する団体のため、どうしてもメンバーの入れ替わりが生じることになり、いかに息の長い活動が出来る組織になるかが両団体の課題でした。そこで、松代地区全体を活動領域とすることで参加できる学生数も増え、メンバーの増加にもつながり、入れ替わりのできる世代間の集まりになりました。いつも『自分一人が頑張ってもだめで、みんなでやっていく！』ということが大切』だと思い、自分がいなくなる先のことも見据えて活動しています。」と話しています。

各部会での取り組み

Matsushiro JBT では、3つの専門部会（係）を設け、それぞれが仕事を分担して行っています。専門部会のほかにも役員会や全体指導班、特別部会などを設置し、メンバーがそれぞれ役割を分担して活動することで活動の効率化を図っています。

地域振興部

この部会の活動は多岐にわたり、他団体からのボランティア依頼もこの部会が担当しています。

《主な活動内容》

- ①各種イベントの企画・運営（主体となって計画・発案・運営を行う）
- ②観光案内ボランティア事業
- ③他団体主催のイベント支援ボランティア
- ④その他諸活動

《活動理念》

松代地区の活性化を大きな目標として活動しています。主にマラソン大会やワークショップなどの松代地区の地域的且つ観光的な振興を図るための催しやイベントを企画・運営します。また、「エコール・ド・まつしろ倶楽部」「松代商工会議所」などの主催するイベントやお祭りなどでお手伝いボランティアとしてさまざまな活動をし、団体として地域に貢献し松代地区の活性化へつなげています。



▲ウォーキングイベントを主催



▲イベントのお手伝い

福祉環境部

この部会は、奉仕活動や清掃活動などの環境保全活動を主体となって行うほか、福祉の分野で松代地区がよりよい暮らしやすい地区になるように活動を行っています。

《主な活動内容》

- ①奉仕活動・清掃活動（ゴミ拾い・草取り・落ち葉はき・雪かきなど）の実施日や内容を検討し、計画発案する。
- ②発案した計画のもと、作業を主体となって行いメンバーへ共有を図る。
- ③イベントや催しなどで福祉に関わる活動を実施する。
- ④社会福祉協議会から依頼されるボランティアに主体となり参加する。（福祉バザーや福祉大会など）
- ⑤学習支援ボランティアとして、松代地区の児童センター・児童館・子供プラザ・保育園・

幼稚園などを訪問し、学習の支援や一緒に遊ぶなどの活動を主体となって行う。



▲福祉環境部によるごみ拾い



▲福祉環境部による学習支援ボランティア



▲防災部による救命講習の様子



▲防災部による台風時による復旧作業の様子

防災部

この部会は、地震や台風・水害などに備え災害に強いまちづくりを目指し、防災や減災などに関わる活動を多岐にわたり実施します。

《主な活動内容》台風 19 号水害での経験を活かしています。

- ①大規模災害などが発生することが予想される場合（台風の進路が長野県に接近する見込みである場合など）に、理事長と相談し万が一に備えた対応を検討する。（場合によっては緊急会議の実施も検討する）
- ②大規模災害などが発生した際、団体としての対応・今後の活動を検討するため、被災状況の視察を早急に行う。（できる限り発災翌日など早め実施する）又、視察時に被災状況の把握に加え、可能な限り記録撮影を行う。
- ③防災訓練などに積極的に参加する。
- ④防災などに関わるイベント・ワークショップなどを企画・運営（開催）する。
- ⑤防災意識の向上を目指した様々な活動を実施する。

- ⑥年1回長野市消防局が実施する「普通救命講習」を受講する。また、防災部以外のメンバーにも受講するように呼び掛ける。(受講する日程なども防災部が検討する)
- ⑦大規模災害が発生した際、「災害ボランティア」として主体となって活動する。
- ⑧大規模災害が発生した際、復興に向けた様々な活動を実施する。

メンバー募集について

2020年11月15日現在(インタビュー時)、メンバーは16名(高校生12名、中学生4名)で、メンバー集めが課題になっています。メンバー募集のパンフレットを作成しての配布活動や地元松代中学校の掲示板に案内を出すなど、一定の効果はありましたが、より自分たちの活動を地域に周知していくことが大切だと思っています。

今後の課題と方策

井出昌輝さん

組織的な課題に取り組んでいけたらと思います。自分は代表(理事長)をしているので、私が高校を卒業して抜けた後に継続的に組織が展開させていくにはどうすればいいのか日々考えています。自分はこうした地域活動が好きなので負担には感じませんが、自分以外の方だと負担に感じることもあると思いますし、そうは言っても無理やりお願いしていくわけにはいかないので悩んでいます。

そうなりますとやはり主体的に活動するメンバーを増やし、多くの人で共有し分担しながら活動していく体制を整えていくことが肝要なのだと思います。私としては広報活動や発信する機会を多く作り、中高生を中心とした若い人たちにまずは広く知ってもらおうということをやっていきたいと思っています。

高崎悠輝さん

松代地区の課題を挙げるとするとリピーターがつきにくいことがあると思います。毎年10月に「松代藩真田十万石まつり」が開催されており、この松代地区を挙げての一大イベントにはリピーターがついていると思いますが、街にはリピーターがついていないと思います。これを改善していかないことには何も始まりません。方向性がきちんと示された街づくりが必要です。松代地区という特性を考えればやはり景観がキーポイントになると思います。長い土堀に囲まれた武家屋敷や松代城を守るように配置された寺社、町を流れる水路など城下町の面影が多く残っています。松代は同じ真田ですが上田城のように観光客をアイキャッチ性高く引きつける要素は弱いですが、歴史ある住宅や寺社が多く残り、「泉水路」と呼ばれる隣接する家の泉水から泉水へと流れる全国でも珍しい形態の水路もあり、学びながら周遊を楽しむ少し玄人好みの街が形成されています。こうした点を考慮しながら「観る×食べる×泊まる」をトータルとして提供していければ道は見えてくるような気がしています。また、若い私たちの世代が長野市などの行政側にどう働きかけを行って一緒にやって

いけるかも今後の鍵になると思います。

倉嶋奏弥さん

高崎さんと重複しますが、松代はイベントの時は人が集まりますが普段は人がとても少ないです。松代地区以外の人から話を伺うと知名度が低いと感じます。特に高校生は顕著です。私は井出さんや高崎さんより後輩になるので、こうした知名度を上げる活動を先頭に立ってやっていきたいと思っています。

これからやっていきたいこと

井出昌輝さん

すでにお話していることと重なりますが、活動するメンバーを増やしていきたいと思っています。それには周知していかなければいけませんので広報活動に力を入れたいです。具体的には、同世代に共感を抱いてもらえるような広報イベントや活動を体験してみることができるワークショップも面白いと思います。

高崎悠輝さん

私たちは活動に参加することのメリットを伝えきれていないと思います。私は真田丸イベントのボランティアスタッフとして多くの人たちと触れ合い楽しいと思えたことが、現在のように主体的に参画するようになったきっかけです。私にとってメリットだったのです。活動を通じてメリットを感じてもらえるのであれば、**Matsushiro JBT**に限定しなくても良いのではないのでしょうか。まずは実体験をしてもらおう。それにはもう少し広い視野で動けていければと思います。

倉嶋奏弥さん

私はイベントを増やしてどんどん人を呼びたいです。ボランティアスタッフを募れるような大きいイベントをやっていきたいです。

同世代へのメッセージ

井出昌輝さん

こういった活動は強制をするものではないですが、やってみたいと思っていて出来ない人やどう動いたらいいか分からない人がいたとしたなら、ぜひ勇気を振り絞って一歩を踏み出して欲しいです。**Matsushiro JBT**に限らなくても良いと思いますが、私たちもよろしくお願いします。連絡お待ちしております。

☒ **Matsushiro JBT** お問い合わせ先 メール : matsushirojbt@gmail.com

高崎悠輝さん

私はこうした活動やボランティアに関わって、感謝されることや喜ぶ姿を見ることができたのは自分の人生で大きなことでした。ボランティアでなくてもこうした体験を同世代の人にして欲しいと心から思います。Matsushiro JBT でも体験できるかもしれません。よろしくお願いします。

倉嶋奏弥さん

同世代の皆さんにはボランティアのイメージを変えて欲しいです。

× 無償で面倒くさいこと

↓

○喜んでもらうという喜びを知ることができる

ぜひ、経験してもらいたいです。

最後に

ある小学生が「私、中学生になったらボランティアしてみたいんだ！」と笑顔で話していたことを聞きました。自分たちの活動はまだ表にはよく見えてきていない部分もありますが、少しずつでも活動は根付いてきているとも思います。

自分たちの想いに正直にこれからも活動を続けていきたいと思っています。

